

花と葉つばと根つこと太陽

春が来て

黒く湿った土からやわらかい芽が出て

小さな葉っぱがひらきました

通りがかった人がこう言いました

「春が来たね」

葉っぱはとても喜びました

夏が来て

花が咲きました

白くてとてもいい香りのする花です

来る人はみんな言いました

「きれいだね」

花はとても喜びました

秋が来て

花は枯れました

もう誰も

「きれいだね」

とは言いませんでした

それどころかこう言います

「花も終わっちゃったね」

葉っぱはとても悲しみました

冬が来て

葉っぱも枯れました

やはり誰も

「きれいだね」

とは言いませんでした

それどころか見ることもなく

肩に力をいれて足早に通りすぎていきます

根っこはとても悲しみました

春が来て

土から芽が出て

葉っぱが少しひらきました

何人かは足を止めて笑って言いました

「もう春だね」

ひさしぶりに人に会いましたが

葉っぱは喜べませんでした

葉っぱは根っこに言いました

「ごめんね

きみは寒い冬も

ずっとずっとがんばっていたのに

誰もきみに気づきすらしなかったよね

ぼくは冬のあいだ休んでいるけれど

きみはそんなときもひとりでがんばっていた

春になるとぼくは誰かに気づいてもらえるけれど

だけどきみは・・・

春になったってぼくは笑えやしないよ」

根っこは葉っぱに言いました

「そんなことないよ

喜んでよ

春になってきみと会えるのが

ぼくはとても楽しみだったんだ

冬なんかつらくないさ

きみがいてくれるおかげで

ぼくは元気になれるんだよ

忘れないで」

夏が来て

花が咲きました

白くてあまい香りのする花です

来る人はみんな言いました

「きれいだね」

でも花はもう喜ばませんでした

花は葉っぱに言いました

「ごめんね

きみは春から秋まで

長いあいだががんばっているのに

でも誰もきみのことを見つめたりしなかった

ぼくなんかより

きみのほうががんばっているのに

ぼくばかり注目されてなんだかいやだよ

いくらちやほやされたって喜ばやしないよ」

葉っぱは花に言いました

「そんなことないよ

喜んでよ

夏になって元気なきみに会えるのが

ぼくの楽しみなんだ

きみがいてくれるだけで

暑い夏だつてつらくないんだ

きみがいてくれるから

ぼくはがんばれるんだよ

忘れないで」

秋が過ぎ

冬が来ました

花も葉っぱも

今はいません

根っこはある日

暗い土の中で泣きました

泣くつもりなんてありませんでしたが

涙があとからあとから出てきました

どんなふうにも思っても

やはりひとりにはさみしく

自分がどんなにがんばっても

誰にも気づいてもらえないのは

やはりつらいことでした

泣いても誰も声をかけてくれません

根っこは暗く冷たい土の中で

もっと泣きました

花も

葉っぱも

根っこも

相手のことをなくさめることはできません

自分のことをほめてあげることができなかつたのです

春が来て

夏が来ました

花も葉っぱも

今はとなりにいます

ところがみんなどこか

元気がありませんでした

とても暑いある日

ついに花と葉っぱはしおれてしまい

目の前の地面にできた水たまりを

力なく見つめていました

ふいに花と葉っぱは

まぶしさに目をつむりました

空高くのぼった太陽が

水たまりに映りこんだのです

太陽はさんさんと光を投げかけます

水たまりは宝石のように

きらきらと輝きはじめました

それを見て花と葉っぱはうなだれたまま

ため息をひとつつきました

太陽は心配になってみんなに聞きました

「なんだか元気ないね

どうしたの？

ちよつと暑すぎるかい？」

花と葉っぱが言いました

「根っこが最近元気ないんだ」

太陽は根っこの気持ちがあつたので  
やさしくこう言いました

「きみがいるからみんながいるんだよ  
ぼくは高いところにいるから

じつはよく見えるんだ  
きみのまわりに

とてもとてもきれいな花畑が  
広がっているんだよ

きみは気づいているかい？  
きみがずっとずっと

春も

夏も

秋も

冬も

ずっといてくれたから

春が来るたびに

きみの子どもたちが

ここに生まれてきたんだ

人は誰も

きみに気づかないかもしれない  
でもぼくはいつも

誰よりもがんばっているきみを  
見ていたんだよ

ぜったいに

忘れないで

ありがとうね」

根っこは太陽に言いました

「きみはひとりでいるとき

さみしくはないの？

誰か気づいてくれるの？」

太陽は笑って根っこに言いました

「ぼくには自慢できることが

ひとつだけある

ぼくがひとりぼっちになることはないんだ

冬でもいつでもどんときも

きみがいるからね

それにぼくが休んだら

大好きなきみたちに

会えなくなってしまうしね」

そう言って太陽は

花たちと

葉っぱたちと

根っこたちに

ひときわつよく輝いてみせました

すると

土を黒く湿らせ

水たまりをつくっていた

根っこたちの涙は

またたくまにかわいていきました

そこでは今でも

春になると

たくさんの小さな葉っぱたちがいっせいに芽吹き

夏になると

いちめん真っ白な花畑になるのですた

そして誰よりも根っこたちが

それを楽しみにしているのです